

SCHECTER

GUITAR RESEARCH

— OWNER'S MANUAL —



<http://www.schecter.co.jp>
info@schecter.co.jp

.....
シエクター・コーポレーション株式会社

〒171-0033東京都豊島区高田2-10-11 TEL.03-3982-4907 FAX.03-3982-2197
.....

※各モデルのコントロール説明は、QRコードまたはURLから当社ホームページでご確認ください。

【安全にご使用いただくために】

本紙には、シェクター製品を正しく安全に弾いていただくための注意事項が記載されています。ご使用前に必ずお読みください。また、エレクトリック・ギター、ベースを快適な環境で維持していただくための重要事項も記載されていますので、ご使用中は本紙を保管していただきますようお願いいたします。

★エレクトリック・ギター、ベースの取り扱いについて

- ◎ストラップを使用する場合は、ストラップの装着部が確実に固定されていることをご確認ください。
- ◎演奏中にエレクトリック・ギターやベースを振り回したり、乱暴な取り扱いをすると、ストラップが外れて落下したり、他者を傷つけるなど思わぬ事故や怪我の原因になりますので、絶対にお止めください。
- ◎ピックアップやコントロール部分の正しくない交換や改造は、故障の原因となりますので、必ずお買い求めの楽器店にご相談ください。

★電気による事故や怪我を防ぐために

- ◎雨や雷などの時に屋外で演奏する場合、また、屋内で演奏する場合も、湿気の多い場所でエレクトリック・ギターやベースをアンプ、エフェクターなどの外部機器に接続して使用すると、落雷による火災や感電をする場合がありますので、ご使用の際には天候、湿度などに十分ご注意の上、安全な環境でご使用ください。
- ◎エレクトリック・ギターやベースを演奏中に雷が発生した場合、屋外はもちろん、屋内でも、すぐに演奏を中止し、アンプからプラグを抜いてください。直接の落雷はもちろん、近い場所に落雷した場合でも、コンセントに高圧が発生し、演奏者が感電する可能性がありますので十分にご注意ください。

★弦による事故や怪我を防ぐために

- ◎弦の交換や調整をする時は、顔を楽器に近づけ過ぎないようにしてください。弦が切れて目や顔を傷つけるなど、思わぬ怪我や事故の原因となる場合もありますので、注意して行ってください。
- ◎交換した後は、弦が糸巻きからあまり長くはみ出さないよう、不要な部分を短く切ってください。弦の先端は鋭利になっていますので、怪我や事故の原因になる場合もあります。また、お手入れの際などにも、弦の先端部には十分に注意して安全に行ってください。

★安全な保管方法について

- ◎エレクトリック・ギターやベースをアンプを使用しない時は、火気の近くや高温多湿の場所を避け、ケースに入れるか、専用スタンドなどを使用して、安定した状態で保管してください。火災や地震、または何らかの原因で落下・転倒することを防ぎ、破損や怪我などの原因をつくらないようにしてください。
- ◎ケースの中に楽器専用の乾燥剤などを入れて保管しておく、理想的な湿度を保つことができますのでお勧めします。

★乾電池の使用・廃棄について

- ◎乾電池を使用するモデルは、指定サイズの乾電池を使用し、極性を正しく合わせてセットしてください。長時間使用しない場合は、必ず乾電池を外してください。装着したまま放置すると、乾電池のバッテリー液が漏れ出し、電気回路が故障する原因になる場合もありますのでご注意ください。
- ◎使用後の乾電池は、各自自治体の規定に従って廃棄してください。その他のゴミと一緒に出したり、火気に投じるなど、危険な行為は絶対にお止めください。

★メンテナンス(効果的なお手入れ)の方法について

- ◎演奏後は、パーツの錆を防ぐため、弦の裏側やフレット、ブリッジサドルやナットに付着した汗や脂を、専用クロスまたは乾燥した柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- ◎ただし、ボディやネックの塗装面の汚れを拭き取る場合は、塗装面に悪影響を与えるので、揮発性の薬品や研磨剤は使用しないでください。こびり付いた汚れは、楽器専用ポリッシュを染み込ませた布または専用クロスで丁寧に拭き取ってください。
- ◎塗装仕上げが施されていない指板面は、専用クロスまたは指板用オイルや良質のレモンオイルなどを少量含ませた柔らかい布で拭いてください。また、フレットも時々ほこりを払い、同じように軽く油を含ませた柔らかい布などで拭いてください。

★弦高調整について

◎弦高とはフレットと弦とのスキマのことを示します。特に弦を押さえた時の演奏性に大きく影響しますので、正しいネックの状態できちんとチューニングを行ってから、フレットと弦のすき間を計って判断します。21フレット部分での弦高が一般的な目安となります。弦高が高過ぎると運指が難しくなり、逆に低過ぎると弦のビリつきや音づまり、サステインの劣化を発生します。弦高調整はブリッジ本体、または、ブリッジサドルの高さを変化させて調整します。また、ネック調整やゲージの異なる弦への交換後も弦高の再調整が必要です。

適正弦高は1フレットを押さえた状態で21フレット上でギターの場合1弦側で弦下1.6mm、6弦側で2mm程度、ベースの場合で1弦側で2mm、4弦側で2.5mm程度になります。

★オクターブ調整について

◎新しい弦に交換した時やネックの調整を行った後は、すべてのフレットで正しい音程が得られるように、オクターブ調整をする必要があります。正しくチューニングし、演奏時の状態でギターを持ち、それぞれの弦の12フレットを押さえ、その時の音と12フレット上でのハーモニクス音が、おおよそ等しいかどうかを判断する方法が一般的です。ハーモニクス音を基準として、フレットを抑えた時の音が低い場合はブリッジサドルを前方(ヘッド側)へ移動させて弦長を短くします。逆にフレット音が高い場合は、ブリッジサドルを後方(ヘッド側と逆方向)へ移動させて弦長を長くします。

※正確なオクターブ調整にはチューナーが必要です。特にサドルを後退させる場合は、弦切れの原因になりますので、必ず弦をゆるめてから調整を行ってください。

★ピックアップの高さ調整について

◎ピックアップの高さを調整することでも、音量や音質の微調整ができます。ドライバーでピックアップ両側のアジャストスクリューを調整し、1フレットを押さえた状態でリアピックアップ、または、ポールピースと弦のすき間が、1弦側で2mm、6弦側で3mm程度、フロントピックアップで1弦側で3~5mm、6弦側で4~6mm程度になる状態が一般的です。しかし、ピックアップの種類だけでなく、演奏形態やアンプ側の特性によっても異なりますので、実際に音を確認しながら調整してください。

ピックアップと弦の距離が近いほど音量が増しますが、近過ぎると音フレやピックアップの磁力による弦のビリつきの原因になります。逆に距離が遠いほど、歪みの少ないクリアな音質になりますが、高域が減少したり音量が低下してしまいます。ピックアップの出力により適正な高さは上記の数値より多少前後する事があります。

◎ポールピースの高さ調整が可能なタイプは、あくまでも各弦ごとのバランス補正として調整してください。ポールピースのタイプによって、マイナスドライバーを使用してください。

★ネックについて

◎ネックには弦の張力がかかっているため、チューニング状態や弦のゲージの変化、また、温度や湿度の変化によって、反り具合が微妙に変化することがあります。そのため、ネックはアジャストナットを回すことで、反り具合を微調整できる仕組みになっています。調整するためには、まず、正しくチューニングし、演奏時の状態でギターを持ちます。そして、1弦の1フレットと16フレットを同時に押さえた状態で、8フレット部での弦とフレットのすき間を計ります。同様に低音弦側でも同じ測定を行い、それぞれのすき間が、おおよそ0.3mm~0.4mmになることを目安に、わずかな「順反り」状態に調整します。ネックの形状やボディとのジョイント方法によって症状はさまざまですが、弦高が高く、高音部の弦のビリつきがひどくなり、オクターブが合いにくい場合は、ネックが順反りし過ぎている可能性があるため、このすき間が大きくなります。弦高が低くなって低音部の弦のビリつきや音づまりが発生する場合は、ネックが「逆反り」状態になっている可能性があるため、すき間が小さくなります。見た目の判断だけでなく、症状に合わせた調整が必要です。

◎アジャストナットは、ヘッド側(モデルによってはトラスロッドカバー)の内部かネックの付け根側に取り付けられています。エレクトリック・ギター、ベースに付属の六角レンチやドライバーなどを使用して、アジャストナットを右方向に締め込むほど、ネックは逆反りし、左方向にゆるめるほど順反りになります。四分の一回転をひとつの目安に、少しずつチューニングと調整をくり返してください。

※ネックの調整には十分な注意が必要です。アジャストナットが上手く回らない時や正しく調整できない場合は、無理な調整は避け、お買い求めの楽器店か弊社にご相談ください。

ネックの反り

順ぞり



逆ぞり



★弦の交換、ベグ(トルク調整)について

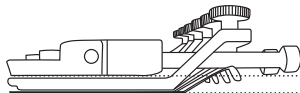
- ◎錆が発生したり、変色したり、また、音がかもって聴こえたり、ピリつきがひどくなった時には、できるだけすべての弦を同時期に交換してください。この交換作業は、ネックにかかる力の急激な変化を防ぐために、すべての弦をいっぺんに外さずに、1本ずつ順番に張ることが理想的です。
- ◎異なるゲージに交換した場合は、ネックの反り具合が変化してしまうので、ネックだけでなく、弦高やオクターブ、トレモロの取り付け角度など、各部分の再調整が必要です。色々なブリッジがありますので、それぞれの調整方法に従って再調整してください。
- ◎弦は糸巻ポストの上から下へ2~3回、順にきちんと巻いてください。ポスト内部に弦の先端を挿入するタイプの糸巻は、あらかじめニッパーなどで弦の先端部分を切り、長さを調整してから巻いてください。
- ◎ベグに回転の堅さを調整するスクリュー(トルク調整)が付いているモデルは、スクリューを締め付けるほど、つまみの回転が固くなりますので、プラスドライバーでお好みの固さに調整してください。
- ◎粗悪な弦を使用すると、正しくチューニングできない場合もあります。また、弦がねじれていたり折れたままの状態ですると、ピリつきやサスティーンの劣化を招く場合もありますので、あらかじめ、ねじれや折れがないことをご確認の上、良質な弦をご使用ください。

★フロイドローズ(フロイドローズライセンスド)ブリッジの調整について

- ◎フロイドローズ(フロイドローズライセンスド)ブリッジの弦高調整は、本体左右のスタッドボルトを3mmの六角レンチで回すことで、ブリッジ全体の高さを調整することができます。各弦ごとの調整はできません。
- ◎弦交換の後や、チューニングを変えた場合などは、ブリッジ本体がギター本体と平行になるように、スプリングハンガーのビスを動かしながら、スプリングのテンション(強さ)を調整し直してください。
- ◎また、ロック・ナットをロックした後も、ファイン・チューナーによって各弦ごとにチューニングの微調整ができます。ロック・ナットをロックする前に、あらかじめ、すべてのファイン・チューナーを可動範囲の中央付近に調整しておくことがポイントです。
- ◎弦をロックする際に強くロックしすぎるとロックインサートが割れる原因になります。付属の3mmのレンチで締める際に硬くなったと思ったら1/4回転程度の締込みで十分ロックできます。
- ◎ボールエンド側をカットするときは図を参考にカットしてください。
- ◎SD-2 24、NV-3 24に搭載されているSCHETTERオリジナルブリッジにはスタッドロック機能が搭載されています。ブリッジの高さを調整する際には必ずスタッドロックを付属の1.5mmレンチで解除してから行い、調整後にはロックしなおしてください。

ブリッジの調節

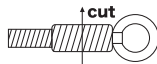
平行になるようにセッティング



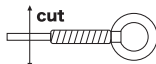
ボディトップ面

弦の切り方

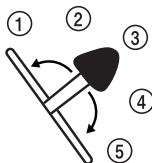
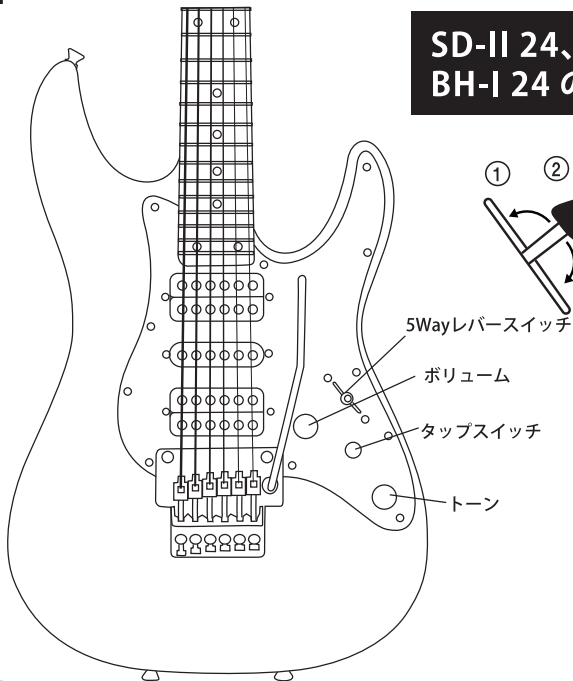
巻き弦



プレーン弦



SD-II 24、NV-III 24 BH-I 24 のコントロールについて

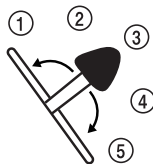
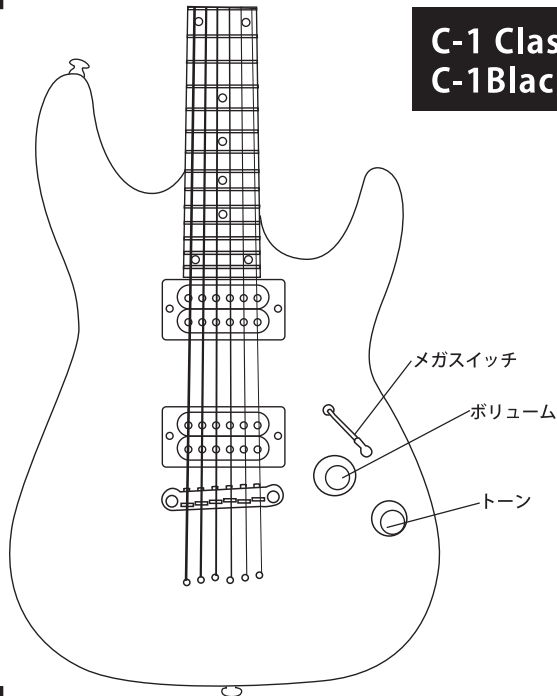


- ① フロントピックアップ
- ② フロント+センターピックアップ
- ③ センターピックアップ
- ④ センター+リアピックアップ
- ⑤ リアピックアップ

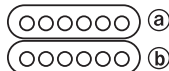
スプリットトーンコントロール

通常のHi-Cutに加え、トーンノブを引上げた状態でLow-Cutトーンとしても機能するパッシブ・サーキットシステム。バッテリーに頼らず、ナチュラルで多彩なトーン・アレンジが可能。

C-1 Classic C-1BlackJack のコントロールについて



フロント

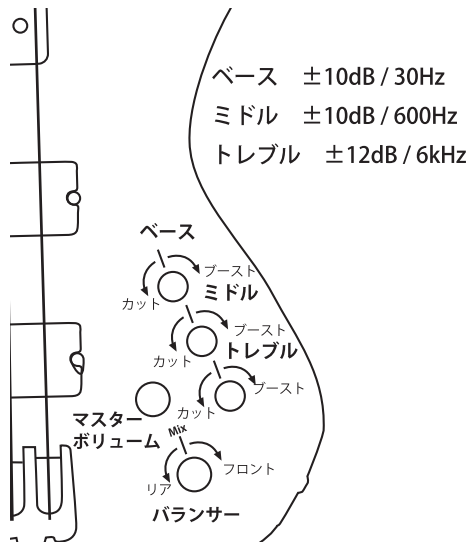


リア

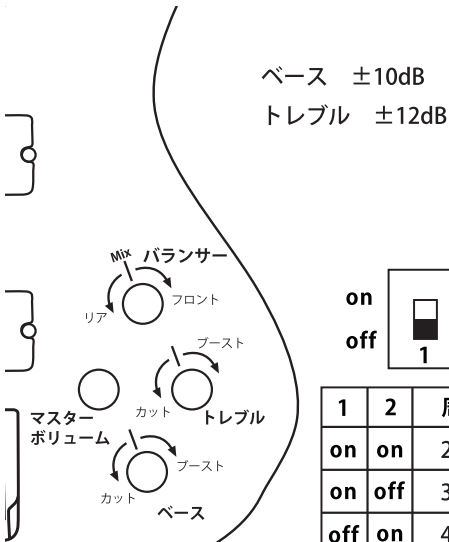


- ① のポジション aとbのコイルのシリーズ配線
- ② のポジション aとcのコイルの平行配線
- ③ のポジション aとcのコイルのシリーズ配線
- ④ のポジション bとdのコイルの平行配線
- ⑤ のポジション cとdのコイルのシリーズ配線

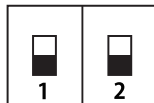
3Band EQ EMG-B64-EQ



2Band EQ EMG-BTS コントロール



on
off



1	2	周波数
on	on	2.1kHz
on	off	3.5kHz
off	on	4.5kHz
off	off	7.0kHz